

令和7年度 B2講座
リスク区分等の変更があった医薬品
(令和7年5月1日現在)

- ・ 第一類 ⇒ 第二類になる可能性のある医薬品
オキシメタゾリン・クロルフェニラミン鼻炎用点鼻薬
ナシビンメディ (佐藤製薬)
(令和7年9月13日～)



1

ナシビンメディの効能・効果と特徴

【効能・効果】

鼻づまりのある急性鼻炎又はアレルギー性鼻炎による次の諸症状の緩和：鼻づまり，鼻みず（鼻汁過多），くしゃみ

承認基準では、「急性鼻炎、アレルギー性鼻炎又は副鼻腔炎による次の諸症状の緩和：鼻づまり、鼻みず(鼻汁過多)、くしゃみ、頭重(頭が重い)」の範囲

【特徴】

- オキシメタゾリン塩酸塩とクロルフェニラミンマレイン酸塩を配合した持続性点鼻薬です。
- 1日1～2回の使用で、持続した効果を発揮します。
- 配合成分により、鼻づまり，鼻みず，くしゃみに効果をあらわします。
- 一定量の薬液が噴霧できるスプレーです。一度スプレーした液は、容器内に逆流しませんので衛生的です。

2

O T C 点鼻薬の主成分

・ 鼻粘膜の腫れを抑える血管収縮薬

血管収縮薬は、鼻粘膜の血管を収縮させることで、鼻づまりの原因である鼻粘膜の腫れを抑えて症状を改善する成分です。代表的な成分として、「ナファゾリン塩酸塩」「テトラヒドロゾリン塩酸塩」が挙げられます。これらは短時間のみ作用する成分で**1日4～5回（最大6回）**使う必要があります。一方、長時間作用する血管収縮薬として、「**オキシメタゾリン塩酸塩**」もあり、**1日1～2回の使用で効果が得られます**。

・ 抗アレルギー作用と抗炎症作用のあるステロイド薬

ステロイド薬は抗アレルギー作用と抗炎症作用をあわせもちます。代表的な成分として、である、「ベクロメタゾンプロピオン酸エステル」「プレドニゾン」「フルチカゾンプロピオン酸エステル」が挙げられます。これらは使用後約1～2日で効果が実感でき、使い続けることでさらに効果が高まります。

佐藤製薬
どの点鼻薬を使えばいいの？ 点鼻薬の成分と鼻炎の種類<https://www.nazal.jp/column/tenbiyaku/type.html>

3

O T C 点鼻薬のタイプ

・ 「血管収縮タイプ」は、通年性・季節性どちらのアレルギーにも使用可能

「血管収縮タイプ（単味剤・配合剤）」は、血管収縮薬を主成分とし、**花粉などの季節性アレルギーだけでなく、ハウスダストやペットの毛などによる通年性のアレルギー性鼻炎、かぜなどの急性鼻炎などにも**使用することができます。**特に鼻づまりに効果を発揮し**、鼻水・くしゃみもカバーする配合剤も存在します。症状がつらいときに、その都度使用（頓用）することが基本です。

・ 「ステロイドタイプ」は、季節性アレルギー性鼻炎のみに使用可能

O T C 医薬品では、ステロイドタイプは単味剤のみ販売されています。「ステロイドタイプ（単味剤）」は、ステロイド薬を主成分とし、**花粉などの季節性アレルギー性鼻炎のみ**を対象疾患としています。鼻づまり・鼻水・くしゃみに効果的で、**眠気の副作用がない**という特徴を持っています。**続けて使用すること（連用）が基本**、症状の改善状態によって使用回数を適宜増減します。

佐藤製薬
どの点鼻薬を使えばいいの？ 点鼻薬の成分と鼻炎の種類<https://www.nazal.jp/column/tenbiyaku/type.html>

4

	成分	特徴
血管収縮成分	ナファゾリン塩酸塩	鼻粘膜の血管を収縮させることで、腫れを抑えて鼻づまりを改善します。短時間作用型で1日4～5回使う必要があります。（最大6回）
	テトラヒドロゾリン塩酸塩	
	オキシメタゾリン塩酸塩	
ステロイド性抗炎症成分	プレドニゾロン	抗アレルギー作用と抗炎症作用を併せ持ちます。使用後約1～2日で効果が実感でき、連用することでさらに効果が高まります。
	ベクロメタゾンプロピオン酸エステル	
	フルチカゾンプロピオン酸エステル	
その他の成分	クロルフェニラミンマレイン酸塩（抗ヒスタミン薬）	第一世代抗ヒスタミン薬で、抗ヒスタミン作用によりくしゃみ・鼻水を抑制します。
	グリチルリチン酸二カリウム（抗炎症薬）	炎症性物質の産生・放出を抑える抗炎症作用により、鼻炎症状を抑えます。
	クロモグリク酸ナトリウム（抗アレルギー薬）	抗アレルギー作用により、鼻炎症状を抑えます。効果があらわれるまで時間がかかります。
	塩酸リドカイン（局所麻酔薬）	局所麻酔作用により、鼻腔内の痛みやかゆみを緩和します。
	ベンザルコニウム塩化物（殺菌消毒薬）	殺菌作用により、細菌による鼻粘膜の炎症を抑えたり、二次感染を防ぎます。

佐藤製薬
 どの点鼻薬を使えばいいの？ 点鼻薬の成分と鼻炎の種類<https://www.nazal.jp/column/tenbiyaku/type.html>

5

ナシビンメディの使用上の注意

■してはいけないこと

- 次の人は使用しないでください
 - 本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人。
 - モノアミン酸化酵素阻害剤等を服用している人。
 ※モノアミン酸化酵素阻害作用等を有する医薬品は以下のようなものがあり、いずれもパーキンソン病の治療に用いられます。また、ゾニサミドはてんかんの治療にも用いられます。
 ●セレギリン塩酸塩 ●ゾニサミド ●エンタカポン
 - 15歳未満の小児。
- 本剤を使用している間は、他の鼻炎用点鼻薬を使用しないでください
- 連続して1週間を超えて使用しないでください（本剤の連用により鼻粘膜障害が発現するおそれがあります）

基準処方では：長期連用しないこと

6

ナシビンメディの使用上の注意

■相談すること

- 次の人は使用前に医師又は薬剤師にご相談ください
 - 医師の治療を受けている人。
 - 妊婦又は妊娠していると思われる人。
 医療用添付文書：有益性が危険性を上回る場合のみ使用すること（妊婦に対する安全性は確立していない）
 - 薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人。
 - 次の診断を受けた人。
 高血圧、心臓病、糖尿病、甲状腺機能障害、緑内障

7

ナシビンメディの使用上の注意

■相談すること

- 使用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性がありますので、直ちに使用を中止し、この文書を持って医師又は薬剤師にご相談ください

皮膚	発疹・発赤、かゆみ
鼻	はれ、刺激感、乾燥感、鼻水、くしゃみ
精神神経系	神経過敏、頭痛、めまい、不眠症
循環器	動悸
消化器	吐き気・嘔吐

- 3日間位使用しても症状がよくなるらない場合は使用を中止し、この文書を持って医師又は薬剤師にご相談ください

8